

日清戰鬪畫報 第八編



0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 60 1 2 3 4 5



秋月家之寶

序

是、實地を踐み目、實境を觀る  
其文字ハ國民新聞社より戰地ニ  
依りて記す者あり久

寄贈

秋月新一殿



I種

W



\*1200800262593\*



寄贈

秋月新一殿

序

是、實地を踐み目、實境を觀る  
其文字ハ國民新聞社より戰地ニ  
派遣せしれり後軍記者あり、以  
てよく簡潔なり、事休を悉せし  
を知らし、其圖書ハ繪畫共進  
會ニ銀印賞を得る大畫伯父  
子の筆にあり、此畫報、信して  
後世に傳ふべし、古ハ蒙古襲  
來の時、竹崎季長が京都の  
畫家土佐長隆父子に托して其  
戰況を画し、めづりたる比、確實  
詳細ありを費ふ、米俣氏父子の



第三軍二聯隊の  
軍旗祭を金沙  
城外に於て執行  
す大山大將山地中  
將以一將校士卒  
共集す



畫、其長隆父子と巧拙如何  
の評に至りては、門外の予は辨  
し得ずとも、たゞ予は然りと雖も  
自ら見聞し、自ら圖畫し、志  
し、萬目凝視の中、比せた公よ  
す畫側に細書す、是れ予の誤  
謬は、あはれを知らず、此畫報ま  
と一少傳家の寶く、あはれを知らず也

饗庭萱村



Anniversary festival of the regimental flag celebrated at Kinshu.



第三軍二聯隊  
軍旗祭を金沙  
城外に於て執行  
大山大得山地中  
將以一得校士卒  
共集す

饗庭堂村

八一  
信

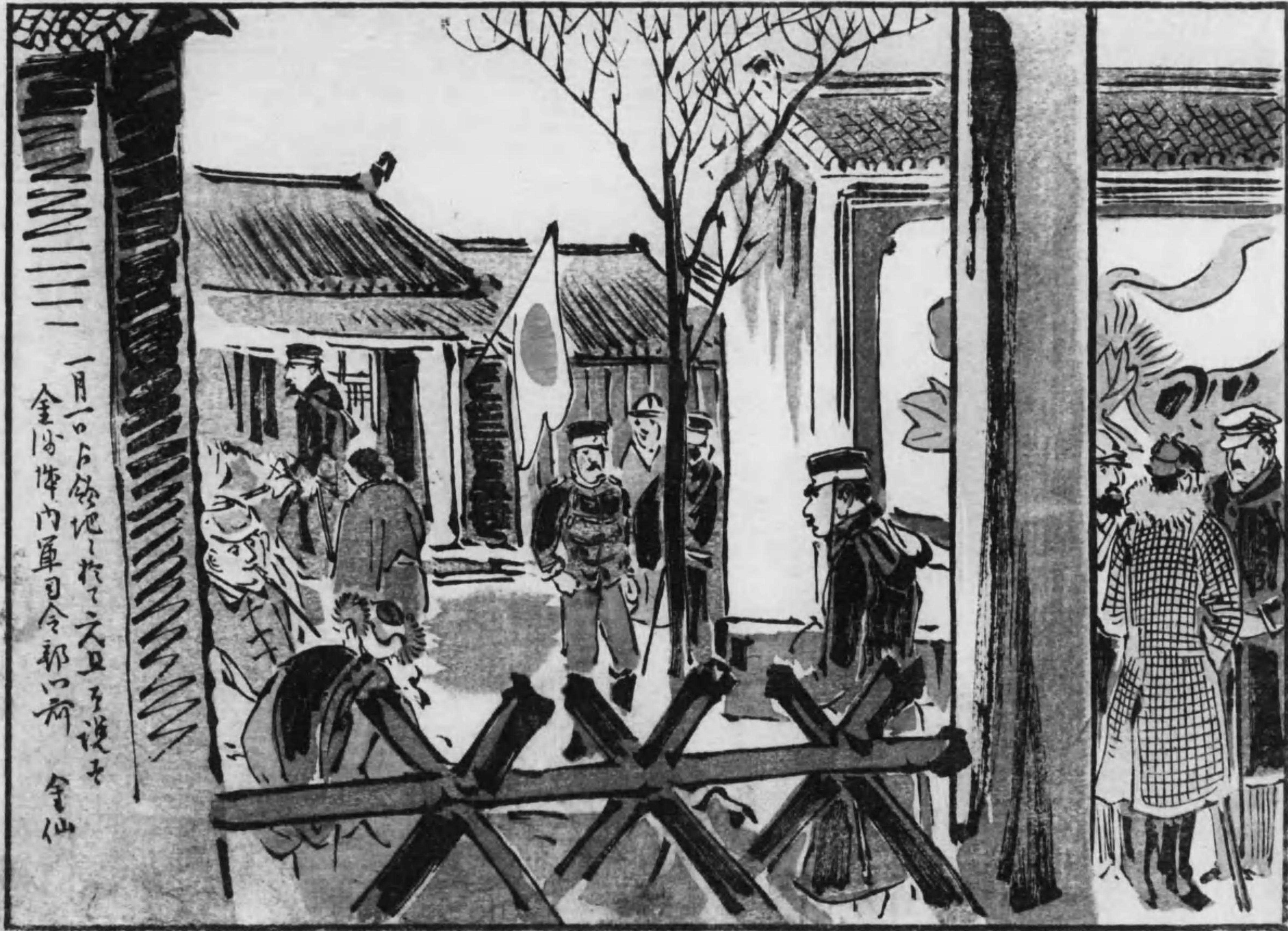


places.





The New Years day fest.val in the occupied places.

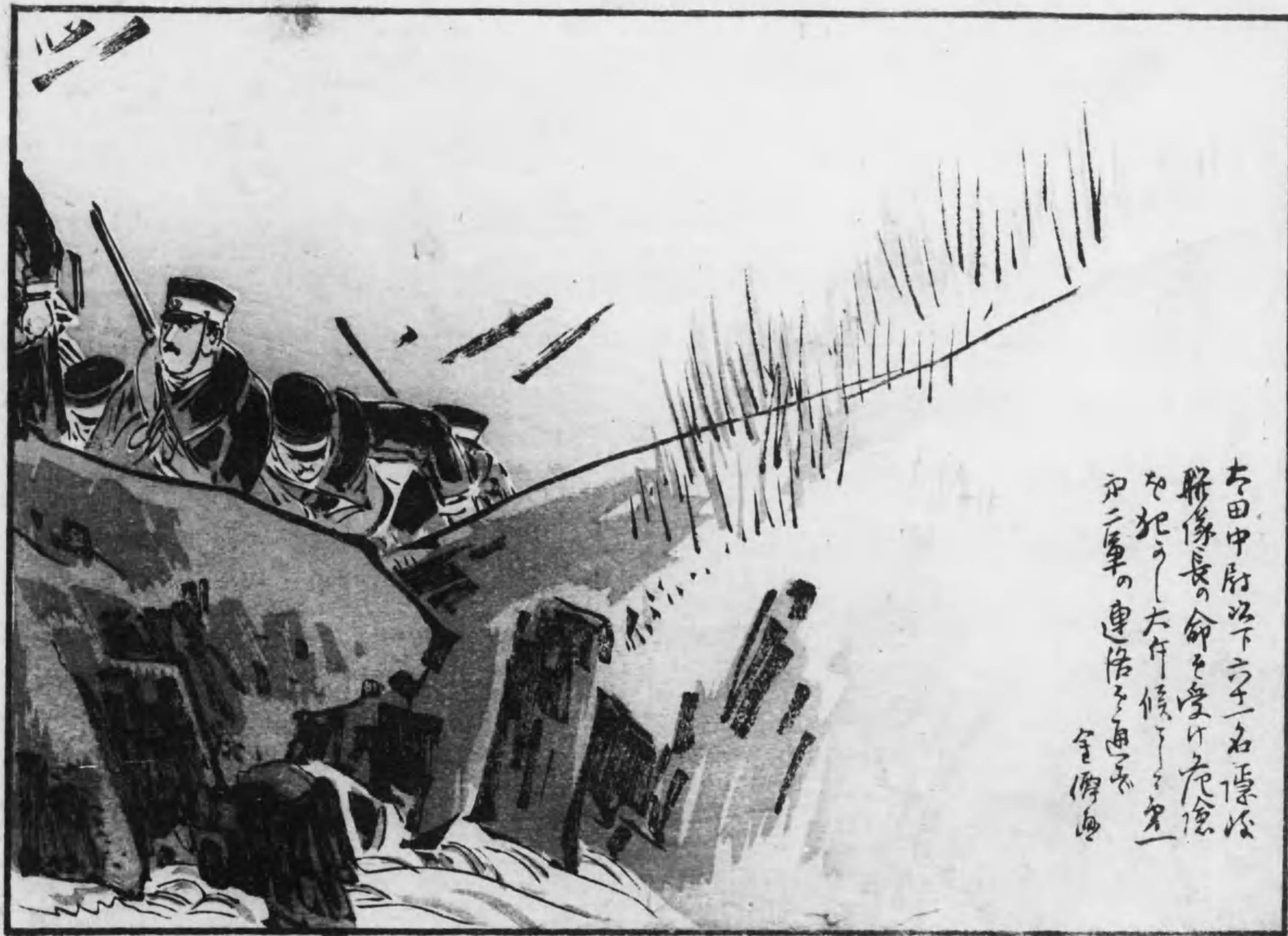




re as the great spy-band  
l corps d'amée.



八三三



中田中尉以下五十一名は  
隊長の命を受け、危険  
を犯し、大任候了る者  
は二軍の連格を海軍  
全軍海



Lieutenant Ōta & other 61 soldiers' adventure as the great spy-band  
making the junction of the 1st & 2nd corps d'armée.

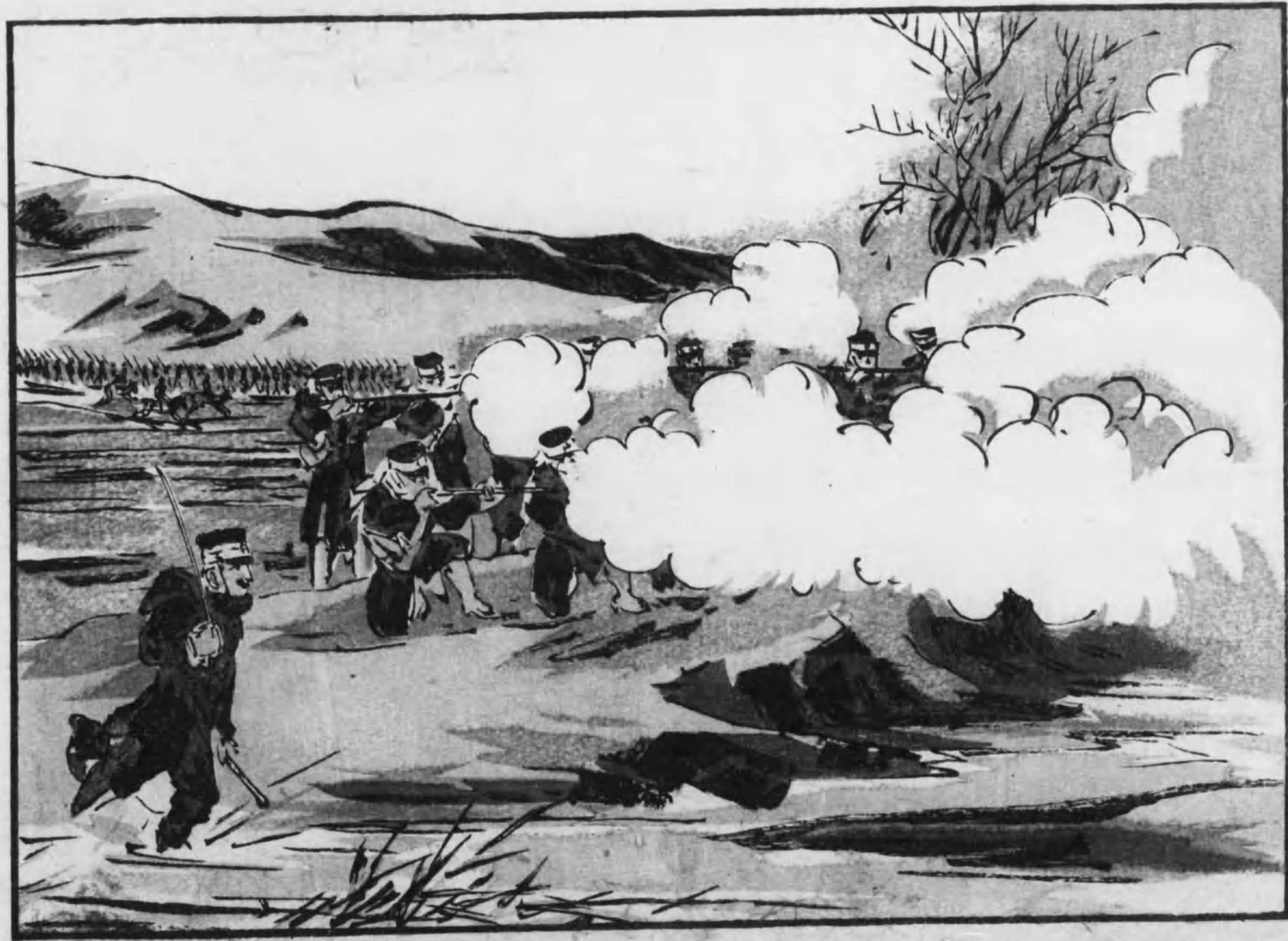


八三





Supplying Gahei.





Major General Nogi under the 2nd corps d'armée occupying Gaihei.





nese in the second



八ノ五

Ohōshisei a Chinese general receiving a bullet in his loins escapes from the field in battle of Kōgasai.



敗將  
轟士成  
馬車  
下運切  
其真核  
匠子匠心  
所救鼎七  
陽中教事  
之助け  
逃れ者白



Two colonels Fajimoto & Satō defeating the Chinese in the second  
 attack by them against Kaijō.



敵兵再び  
 海城を襲  
 ふ徐家園  
 子に於て  
 本佐森二  
 依雪中地  
 上兵を任  
 了敵を引  
 付一時道  
 擊す

八ノ五



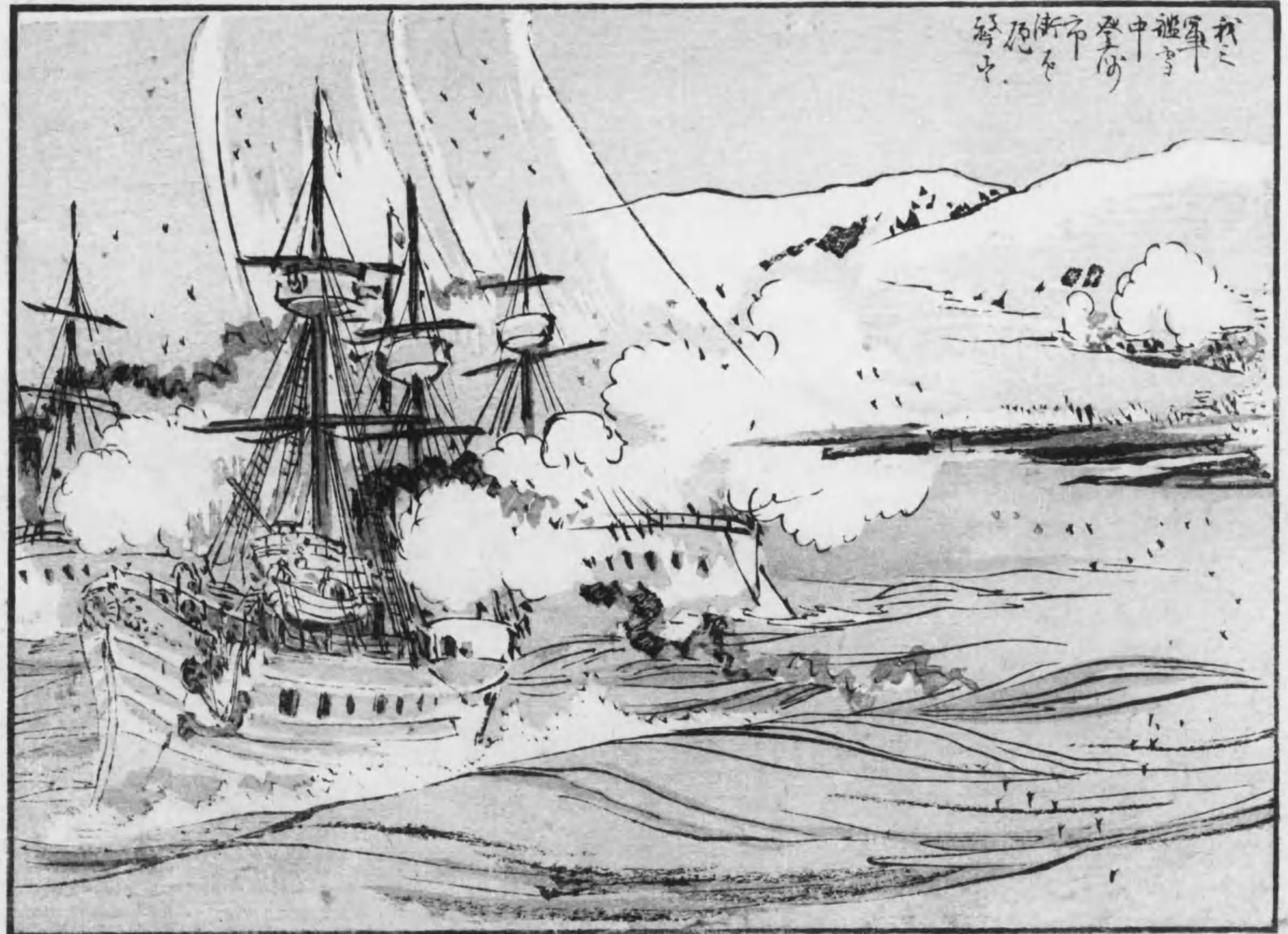
其馬を  
 射殺す  
 陽中教事  
 之助け  
 此の者



rama on the gulf of Eijō.

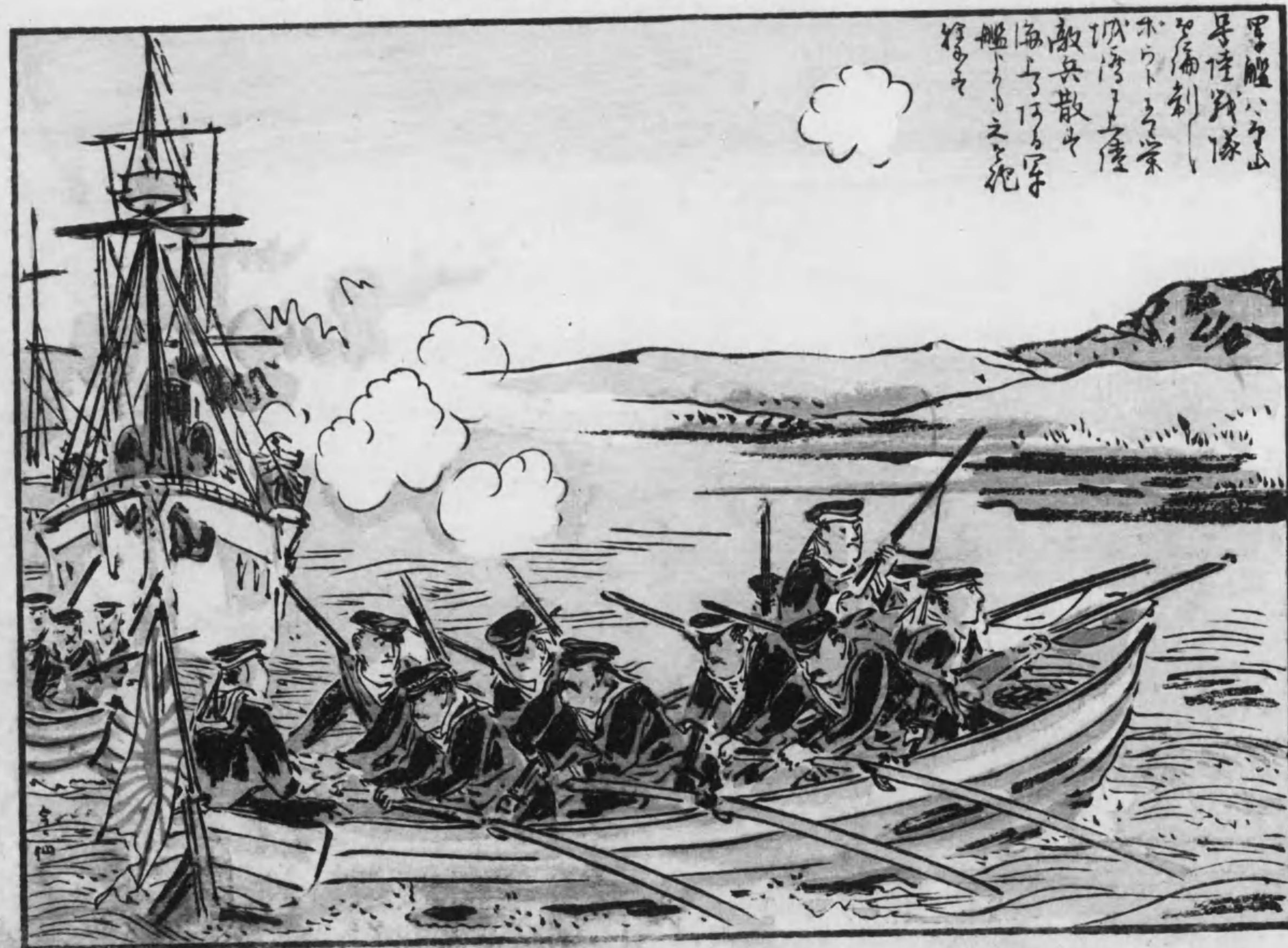


Bombardment against Tōshū-fu by three Japanese war-ships.

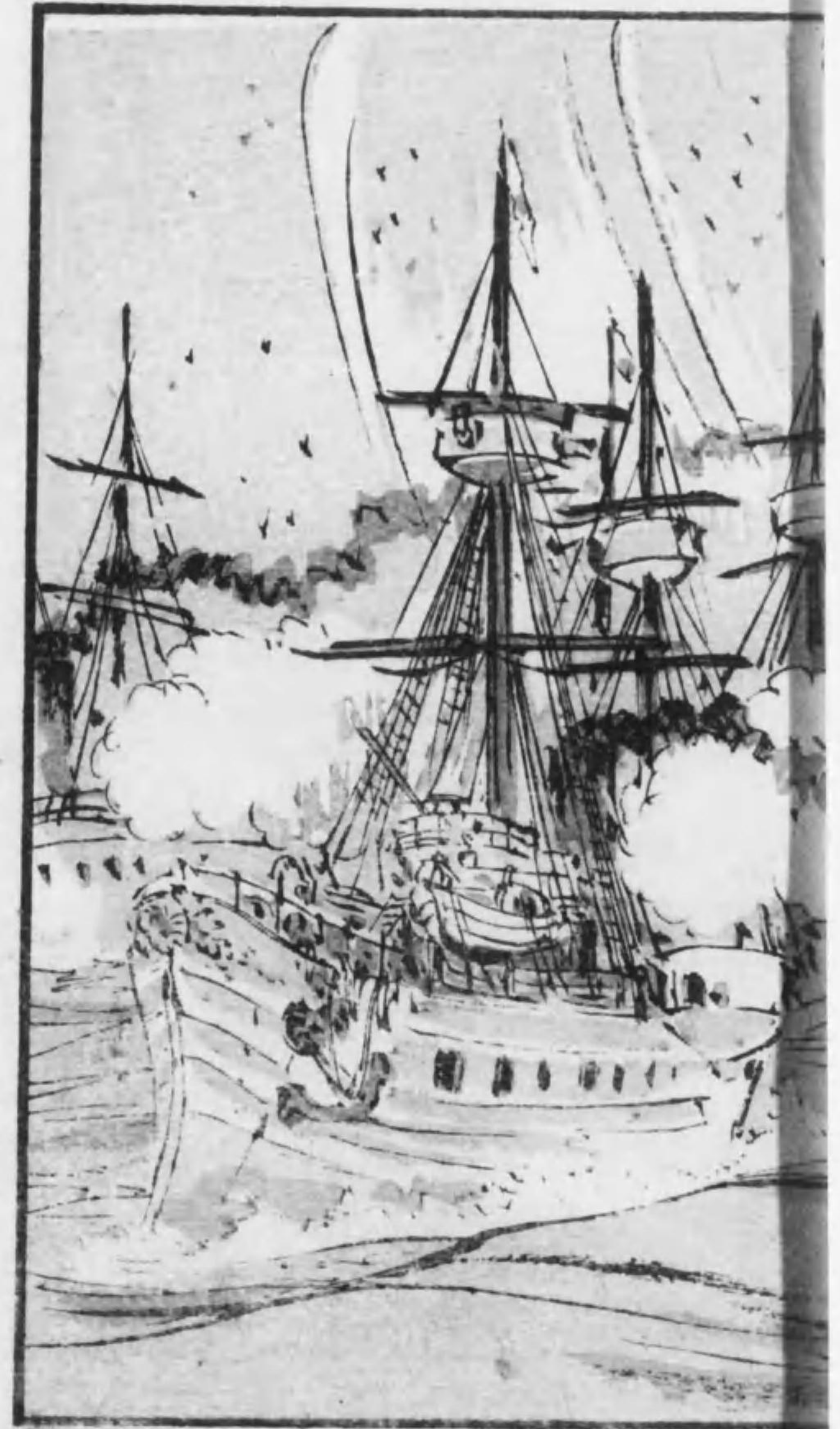




Landing of the land force from the Yaeyama on the gulf of Eijō.



Bombardment again





nee on the



八ノ七  
征

The 4th regiment under Maj. General Yamaguchi occupying Eijō-ken  
& setting the castle gate en fire.

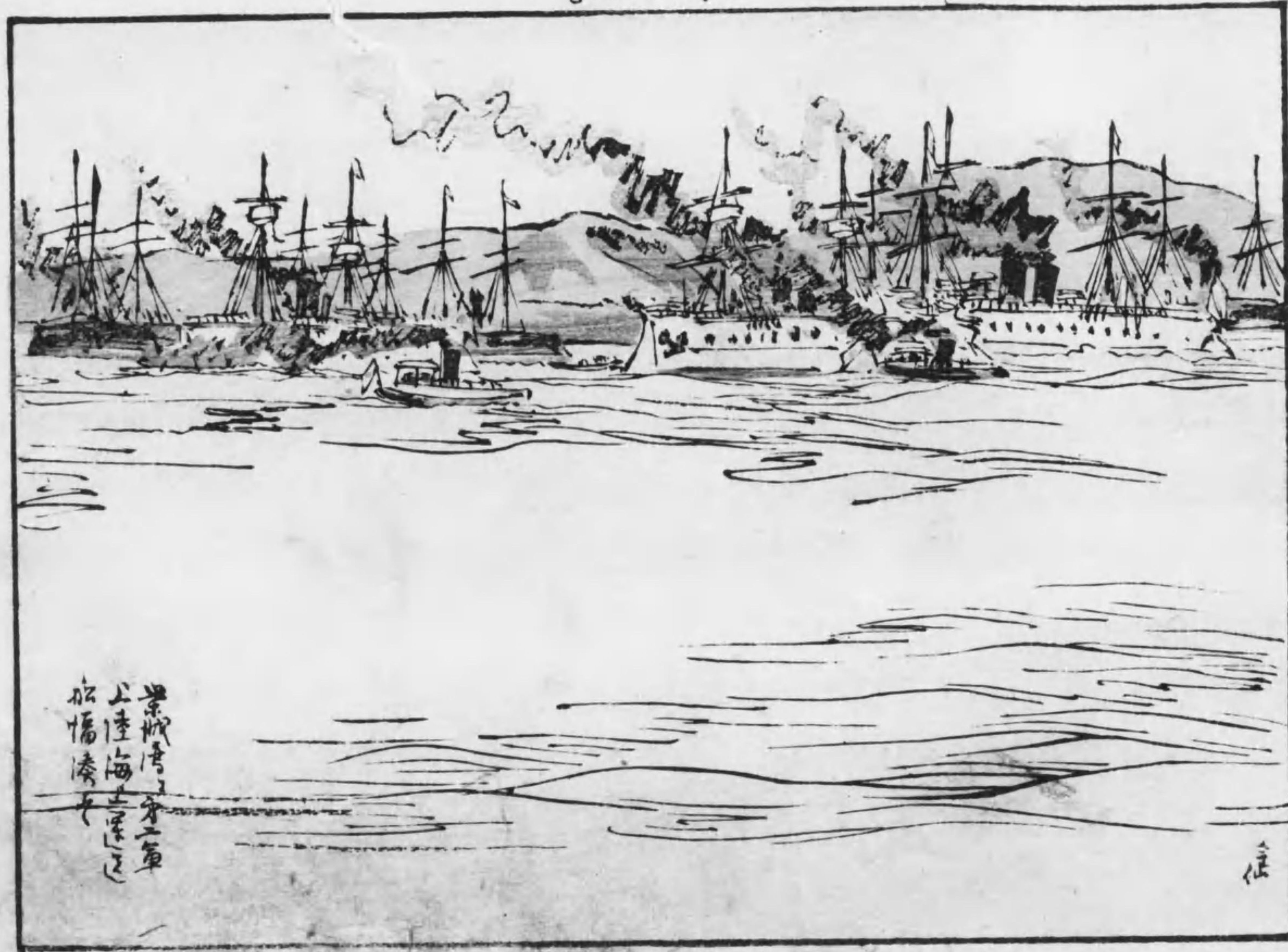


予中山口  
 榮城の  
 先遣の  
 隊に既  
 ち占領  
 した城  
 門の  
 中

八ノ七  
征



Assemblage of war-ships & transports of the 2nd corps d'armée on the gulf of Eijō.



The 4th regiment





ing the enemy's



第一軍紀の軍隊  
負傷者の引揚  
兵隊の傷地を  
治療す



The Japanese troops under the Prince Fushimi occupying the enemy's camp at Kozan near Ikaiei.





series of



八ノ九





The three-columns of the 6th divisional army taking the batteries of Matenroi after a furious fighting.



六六師團在右  
餘備之隊摩  
下砲九貫砲台  
烈砲戰  
之核岸陸  
地砲台四海岸砲  
台三子板

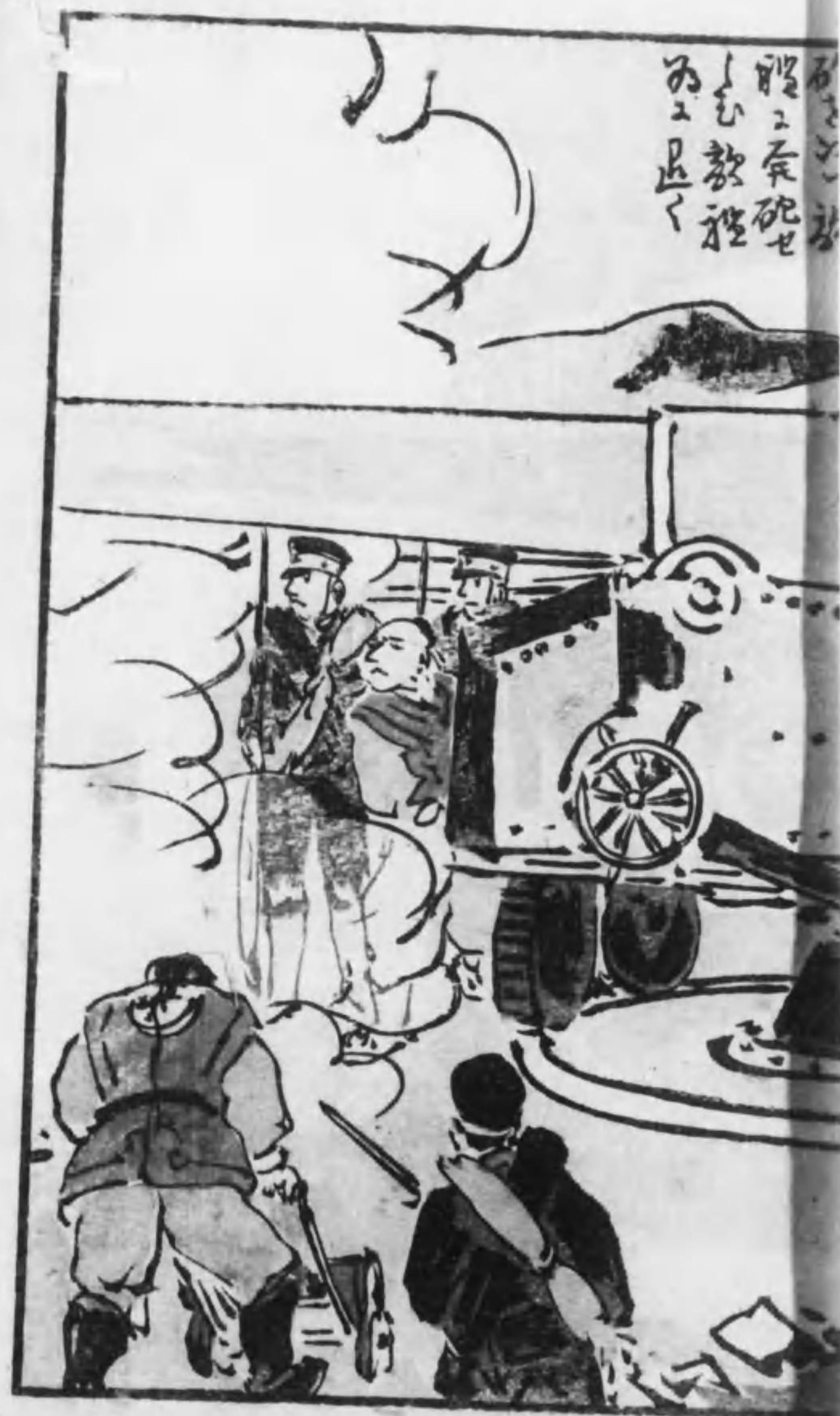
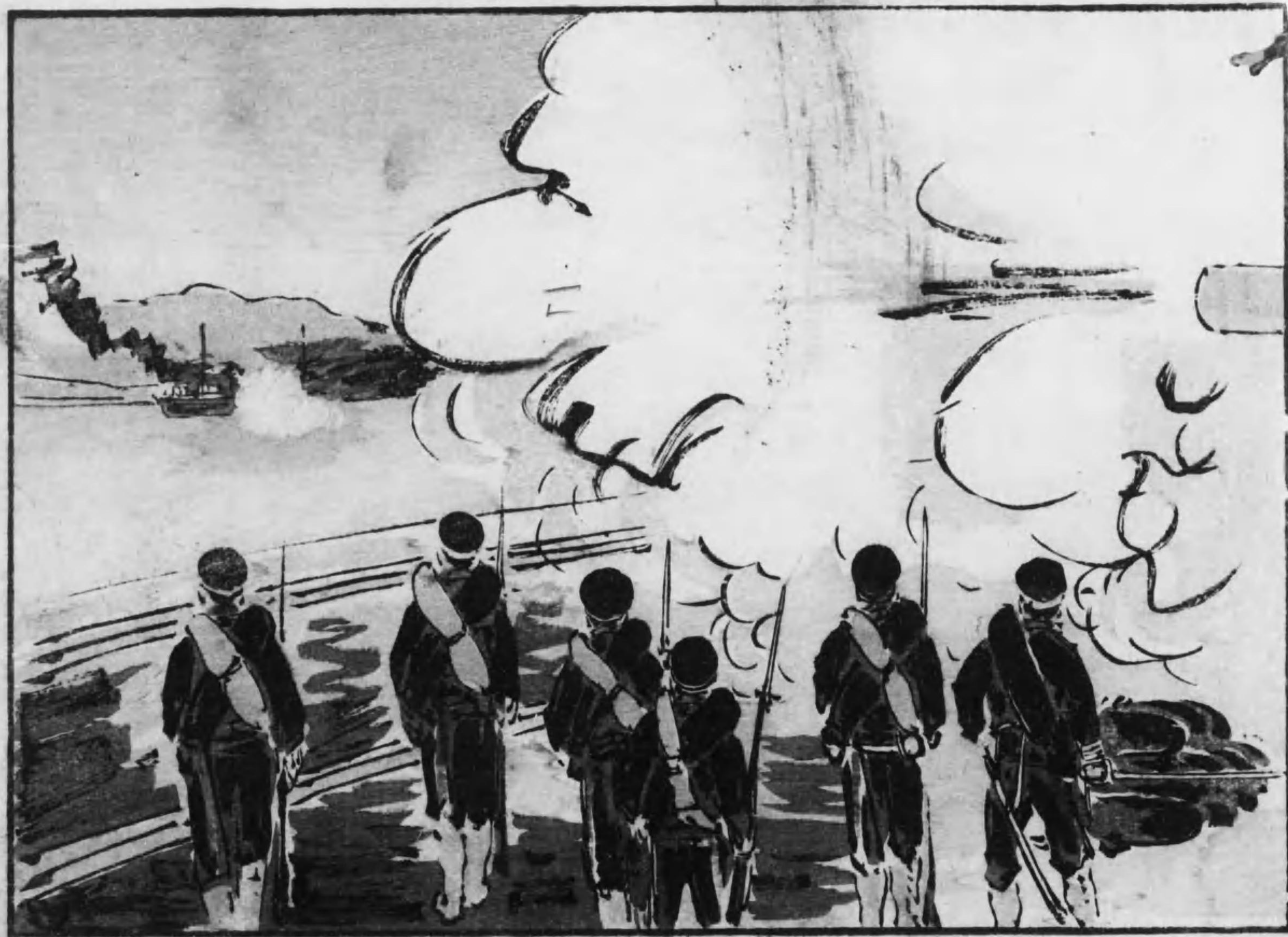








Our 8th divisional army from the newly occupied battery on Mntoroi  
bombarding for the Tei on a Chinese warship.



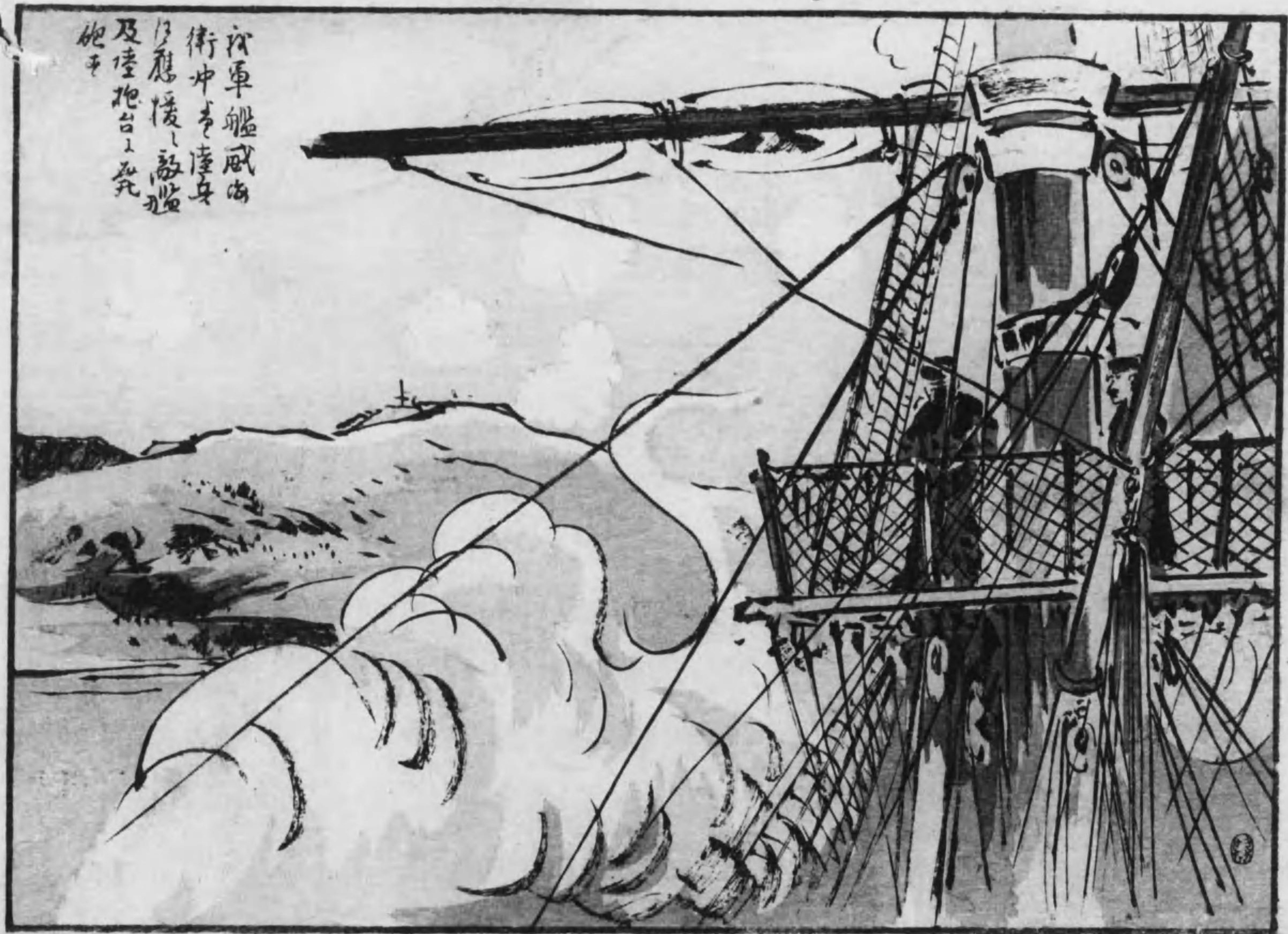


at Matenrei.



八十一

The Japanese naval force in order to re-enforce the landforce hom  
barding for the chinese war-ships & batteries.





Death of Major General Ōdera after occupying the battery at Matenrei.



大寺少将 陣中 歿す  
 砲台 占領 後 砲  
 の 除 敵 砲 臺 遠  
 散 弾 胸 部 中 毒  
 歿 す

The Japanese naval f  
 barding fo



我軍艦隊 威嚇  
 砲撃 中 陸軍  
 砲台 援 護 砲  
 及 陸 砲 台 上 砲  
 砲 撃



The Chinese envoys guarded by our police-men going up to the prefect office in Hiroshima.



第三師團の進軍、柞木城及海城の占領 我征清第一軍の進んで奉天





第三師團の進軍、柵木城及海城の占領。我征清第一軍の進んで奉天府を衝んとするや軍を二道に分ち第一道は立見少將其旅團を率ゐて連山關摩天嶺地方より第二道は桂中將の第三師團及び大迫少將の枝隊にして岫巖海城地方より進む而して大迫枝隊は十五日福島中佐の一隊と共に同地を發して岫巖に向ひ十八日之を占領せしこと既に前編に述べし所なり。

第三師團(名古屋)は曩に安東縣占領以來同地に屯營して壯士冬營の無聊を嘆せし折りから獨立師團として海城方面に向て進發すべき軍司令長官の命令に接し衆皆其命の下るを喜び踴躍して途に上らんとす。

十二月三日午前七時第三師團第六旅團長大島少將直久は第七聯隊第一第二の二個大隊及び騎兵砲兵の諸隊を率ゐて人馬肅々寒風を冒して安東縣を發し師團本部は午前八時を以て續發す騎兵少佐開院宮殿下を始め奉り歩騎砲兵隊輜重縱隊等陸續として里餘に亘り沿道來觀る者堵の如し桂師團長は尙ほ要務あるを以て一兩日を後れ第十九聯隊は翌日を以て出發するの豫定とす此夜師團本部は佛耶嶺に宿營し砲兵隊は後方一里を隔て、三叉流に其他の各隊は佛耶嶺附近の各所に散宿す此日行程六里佛耶嶺は山間の一村にして兩三の農家處々に點在するのみなれば固より大兵を一所に舍營せしむべき家なく殆んど露宿同様の有様にして朔風膚を劈くの寒夜枯草の上に銃を枕とし或は民家の軒下に順次一眠を得るに過ぎず加之らず夜半天色俄に變じ白雪繽紛として降り頃刻にして露臥せる人馬皚々として鶴裳を纏ふに至り其苦難實に名狀すべからず然れども我勇烈なる將卒には凜乎たる忠義の熱血火の如きものあり以て此酷烈なる寒氣を凌却せしなり。

四日午前八時諸隊雪を蹴て進發す四邊皚々一望銀世界に化し行軍最も困難なり然れ共各隊の兵士の勇氣日頃倍し絶えて積雪のためめに歩を緩めず山を跋え水を涉りて將校命令の下に進行す其軍紀



の嚴肅なる以て知るべきなり正午過ぐる頃天霽れて日光輝き積雪融解して道路爲めに泥濘行軍更に困難を極む午後二時過司令部は土坊身の宿舎に達す此地も亦一處に各隊を宿舎せしむることを得ず歩兵は前程なる翟家堡子に砲兵は齊家堡子に舎營せり此日行程亦六里

五日晴午前八時出發し進行すること凡そ三里大猪山の前に到る一河流あり幅四間餘橋なきを以て氷上を徒涉せざるを得ず然れども砲兵縦隊は氷上を渉る能はず乃ち鐵棒を以て結氷を碎きて剪るが如き冷水を徒涉し午後四時龍王廟の司令部宿舎地に達す本地は此近傍の一市街にして人家凡そ三十餘戸あり且つ曩に福島中佐が大孤山に到りたる途次通過せし處にして居民稍我軍隊に馴れ嬉々として我兵を歡迎するものゝ如し此日行程亦前兩日に同じ六日午前陰り午後晴る行くこと里餘大洋河の架橋地に達す此河は幅員凡そ一千里突なるも流水は僅に六十米突に過ぎず架橋は一昨四日佐川工兵大佐が工兵一中隊を率ゐ來りて設計せしものなり此邊樹木なくして橋梁の材料に乏しく又小舟は皆氷結して動すべからず爲めに架橋工事に非常の困難を來たせしが佐川大佐の苦心と工兵の勉勵とを以て遠く立木を伐採し若くは堅氷を碎きて小舟を運轉し遂に前夜までに完成せしなり其耐力は砲車大行李及び輜重縦列の駄馬等は荷擔のまゝ渡るを得て軍隊の進行上大なる便益を與へたりと予而して此架橋點より凡そ三百米突の上流は氷結厚く歩行者は之を渡るも危険なしとて歩兵及び徒歩者は皆此氷上を渡れり正午過ぐる頃開豁の原野に出で南に大孤山を望みて其北麓を進む途中屢大洋河の支流を徒涉し困難を極む午後四時土城子に着す此地は大孤山より岫巖に到る通路にして嚮に福島中佐の通過せし時大に民心を懷柔せし所又大迫少將の岫巖に向ひし通路なるを以て交通の便稍開け且つ居民淳朴にして夙に我徳に感じて其業に安んじ遠近傳へて我軍を観る者處々に群を爲し到る處簞食壺漿し

て我王師を迎ふ是れ洵に我 皇上の恩威他邦に及ぶ所以にして宇内萬邦に誇るに足る殊に可憐なるは土民争ふて我軍を迎歡し唯命是れ從ひ蕞薪等を献じて防寒の具と爲さんことを願ひ書を軍門に呈して歸順の誠を表する者等なり此日行程亦六里

七日前曇天寒威凜冽朔風剪るが如し司令部は午前八時土城子の宿舎を發す此日の行路は大概狹隘なる山路にして逶迤たる溝連河



て我王師を迎ふ是れ洵に我 皇上の恩威他邦に及ぶ所以にして宇  
内萬邦に誇るに足る殊に可憐なるは土民争ふて我軍を迎歡し唯命  
是れ從ひ藁薪等を献じて防寒の具と爲さんことを願ひ書を軍門に  
呈して歸順の誠を表する者等なり此日行程亦六里

七日午前曇天寒威凛冽朔風剪るが如し司令部は午前八時土城子の  
宿舎を發す此日の行路は大嶽狹隘なる山路にして逶迤たる溝連河  
に沿ふて進行す行くと里餘該河に出づ一の土橋あれども橋上は結  
氷の爲め危険の恐れあれば牛馬は悉く河水に入りて渡り歩行者は  
緩に杖に倚りて渡る更に進むこと二里復同河の上流に出づ工兵架  
橋中なりしも未だ完成せざれば牛馬と共に河中を徒渉す其寒冷骨  
を切るが如し午後一時過閣家堡子の司令部宿舎に達す此邊居民は  
難を避けて四方に離散し且つ人家稀少にして各隊一所に宿舎する  
能はず依て前程の土門子或は近傍の民家に分宿す司令部の宿舎の  
如きも一の荒廢せる農家にして戸障子敷物等の備へなく竹の圍生  
の御身に右す閑院宮殿下すら部員が俄に張りし障子の内に一夜を  
明させ給ひし程にて其他は風の四方に吹き通ふす屋内に一夢を結  
びしのみと軍隊の苦難想ふべし此日行程四里半

八日午前陰り午後晴る午前八時閣家堡子を發し行くこと里餘にし  
て復た溝連河を渡り其れより土門子萬全の二嶺を越ゆ二嶺共に峻  
峻將士大に疲る午後三時過遙に紅家堡子を望み南鴻河を渡る同四  
時三十分司令部は岫巖の宿舎に着す桂師團長は去る五日安東縣を  
發して此夕岫巖の司令部宿舎に到達せり此日行程七里餘

岫巖は去る十一月十八日大迫旅團と立見旅團の下部なる三原少佐  
の枝隊と力を合せて占領せし處なり初め第三師團の安東縣を發せ  
し時雪中の苦難は固より期する所なりしも出發の當夜先づ雪に値  
ひ翌日は天晴るも程雪泮融せず爲めに四日佛耶嶺を發してより八  
日岫巖に達する四日間經過せし所の三十里山は悉く雪に覆はれ水  
は皆氷に閉ぢられ先發の人馬は少しも尋常の泥土を踏まず後列の



諸隊は僅に先驅者の踏破せる泥土を現する足跡に従ふのみにて其  
困難實に名狀すべからず殊に恐れ多きは金枝玉葉の御身を以て御  
職務とは申しながら騎兵少佐閑院宮殿下には他の將校と同しく行  
路の艱苦を忍せられ最も御勇しく渡せらるゝを畏てけれ  
斯くて第三師團の全隊は八日悉く岫巖に來集せしかば師團司令部  
は即夜左の命令を各隊に發して一日滯軍せり

- 一 敵の大部は栃木城に在て其一部を清家堡子及び二道河子附近に分遣しあるものゝ如し其兵力は四五千なりん
  - 二 師團は栃木城の敵を攻撃するの目的を以て同地に向て前進せんとす
  - 三 大迫支隊は九日岫巖を出發し大偏嶺牛心山を經て栃木城に向て前進し本隊の攻撃を援助すべし
  - 四 左側支隊は九日岫巖を出發し石炭窩子胡兒溝を經て干馬河附近に至り本隊の左側を掩護し蓋平の方向を搜索すべし
  - 五 岫巖守備隊は岫巖を守備し黃花間の方向を警戒すべし
  - 六 大孤山岫巖間の守備隊は兩地間兵站線の守備に任じ運搬隊長及び兵站司令官より要求あらば之れに應ずべし
  - 七 運搬隊は兵站司令官押上大佐の令下に在て其行務を執るべし
  - 八 前衛は明後十日午前七時岫巖の東北興隆句に至る道路上小川の處を出發し五道河頭上河を經て大偏嶺に向て前進すべし
  - 九 本隊は午前八時三十分其先頭を以て岫巖の北端三叉點を出發すべし
  - 十 大行李は午前九時三十分岫巖の北端三叉點を出發して本隊に續行すべし但し本隊出發まで道路内に入るべからず
  - 大行李長は西尾中尉とす
  - 大行李の行軍序列は股開序列に據る
  - 十一 輜重第一聯隊は午前十時三十分出發大行李に續行すべし
  - 十二 輜重第二聯隊は正午出發第一聯隊に續行すべし
  - 十三 野戰電信隊は岫巖澗運河間電信架設に従事すべし兵站電信隊に接續するに至れば直に報告すべし
  - 十四 定規の外人は二日分周は一日分の糧秣を特別に携帯すべし
  - 十五 予は本隊の先頭に在て進行す
- 而して軍隊の區分は左の如し

右側支隊 長 大迫少將

歩兵第六聯隊(一大隊と一中隊缺)歩兵第十八聯隊(一大隊缺)騎兵第一中隊(一小隊と大孤山岫巖間の遞騎哨を缺)野戰砲兵第三大隊(一中隊缺)工兵第二中隊(一

小隊缺)第一糧食縱列半部

左側支隊 長 佐藤大佐

歩兵第十八聯隊(一大隊)騎兵第一中隊(第一糧食縱列半部

本縱隊

前衛 司令官 大島少將(久直)

歩兵第七聯隊(一大隊缺)騎兵第三大隊本部及び騎兵第二中隊(一小隊缺)工兵第



十四 定規の外人は二日分馬は一日分の糧秣を特別に携帯すべし  
十五 予は本隊の先頭に在て進行す

而して軍隊の區分は左の如し

右側支隊 長 大迫少將

歩兵第六聯隊(一大隊と一中隊缺)歩兵第十八聯隊(一大隊缺)騎兵第一中隊(一小隊と大孤山嶺諸間の選騎哨を缺)野戰砲兵第三大隊(一中隊缺)工兵第二中隊(一

小隊缺)第一糧食縱列中隊

左側支隊 長 佐藤大佐

歩兵第十八聯隊(一大隊騎兵第一中隊)第一糧食縱列中隊

本縱隊

前衛 司令官 大島少將(久直)

歩兵第七聯隊(一大隊缺)騎兵第三大隊本部及び騎兵第二中隊(一小隊缺)工兵第三大隊第二中隊及び大小架橋縱列を缺)衛生隊中隊

本隊 司令官 桂師團長

騎兵第二中隊の一小隊歩兵第十九聯隊本部(一大隊缺)野戰砲兵第三聯隊本部及び二中隊大隊本部共歩兵第十九聯隊の一大隊歩兵第六聯隊の一中隊

輜重第一梯隊 長 岡田少佐

第二糧食縱列第三糧食縱列第一兵站糧食縱列後に軍隊區に入る)第二野戰病院

輜重第二梯隊 長 木村少佐

歩兵彈藥一縱列歩兵彈藥二縱列馬廠二分の一)第三野戰電信隊

此の如く部署既に定まり兩側支隊は路の迂回を要するを以て本縱隊に先立ち九日の午後を以て佐藤支隊は蓋平の方面に大迫支隊は本隊の左側に向て出發せり而して本縱隊の前衛は大島少將之を率ゐて十日午前七時岫巖より栃木城に至る本街道を進行し本隊は桂中將及び參謀將校先頭として同八時三十分進行を始む此日太平洋河の上流を渡ること七回多くは橋梁なくして徒涉し進軍爲め遅々として困難を極む午後五時過大偏嶺に達す嶺峻峻ならざるも北方の阪路は積雪氷凍して人馬共に復た進行に艱めり午後八時過漸く王家堡子に着し師團本部及び本隊の諸隊は此地に舍營し前衛は一里先きなる瓦房店に舍營す然るに行李の到着遅くして午後十時に及び漸く炊事を終りて師團長及び開院宮殿下を始め將校士卒の晚餐を喫せしは夜半十二時過なりしと既にして師團司令部は明日の部署を定めて所謂夜の命令を各隊に發せり

十一日拂曉本隊及び前衛は其舍營地を發して小孤山に向ふ騎兵も亦午前八時前哨線を發して同地向ひ栃木城に通ずる間道を搜索



し兼て大迫枝隊と連絡を通ずるを努む、王家堡子村落の前を流るゝ  
四道川は堤防もなき淺流なるも流れて柝木城に至り更に海城に出  
づる長河なるを以て軍隊は始終此河に沿ふて左折又右折して進行  
せざるを得ず然るに一として橋梁の設けあるものなく緩かに結氷  
の上に土砂若くは藁を敷きて人馬を行のみ而して河を狭む兩側  
は山又山巒峯相連りて數里に亘り宛然隧道を行くが如し天險其此  
の如し柝木海城の鎖鑰は實に茲にあり宜なる哉敵の全力を注ぎて  
此險を守るや

午前十時頃大島前衛隊茶棚店地名に休憩す會我搜索騎兵一報を齎  
らし來る曰く柝木城の南方なる二道河子には敵兵なきも其附近の  
龍鳳王には多少の敵兵ありて我に射撃を試みたらば取敢ず之に應  
戦せりと是に於て前衛の二個中隊は直に前進を命せられ急行して  
之に赴けば二道河子を距る凡そ六七百米突の地に敵の歩騎兵凡そ  
二三百屯集し其本隊と覺しき者は前方大約千五百米突の高地と及  
び其西方の櫻樹溝に在りて各五六百の兵を擁せり而して敵の右翼  
は兵數漸次に増し來りて我に發射せり前衛殆んど全力を出だして  
之に當り暫時にして二道河子を占領す時に午後一時十五分、是より  
先き青木中尉の一隊も櫻樹溝附近の偵察を命せられ小孤山より左  
折して進みたるに我左側枝隊の通路に當る白草凹溝に敵兵凡そ千  
餘人ありとの報告に接し依て第七聯隊第二大隊は二道河子より間  
道を経て左側の高地に登り敵を柝木城の方向に撃退せり既にして  
日尙ほ晡に近きも明日總進撃の計畫あるを以て敢て走兵を追撃せ  
ず前衛は二道河子に師團本隊は跨勾に宿營す此日の戦は我兵負傷  
する者一二名に過ぎざるも唯惜むべきは司令部參謀神原少佐なり  
少佐は戦の始まるや他の參謀と共に彈丸の下に立ちて畫策する所  
ありしが一丸飛び來りて少佐の腰部を貫けり早速野戰病院に入り  
て治療されしも其効なく十四日の夜溘焉として歿されぬ具に悼し  
き事にぞある此夜師團は明日道を左方に取りて櫻樹溝の敵を攻撃

することに決す

十二日天將に明けんとす偵騎來り報じて曰く櫻樹溝方面の敵は漸  
次に柝木城に退くの状態ありと依て師團は前夜の畫策を變じて直に  
柝木城に突進することとせり是に於て前衛及び本隊は共に本道よ  
り進み別に粟飯原大佐をして一隊を率ゐて跨勾より櫻樹溝を経て  
敵の退路を扼せしむ既にして師團の諸隊は漸く進んで柝木城に薄  
りしかば敵は狼狽して海城の方面に遁走せり又大迫右側隊は部署



する者一二名に過ぎざるも唯惜むべきは司令部參謀神原少佐なり  
少佐は戰の始まるや他の參謀と共に彈丸の下に立ちて畫策する所  
ありしが一丸飛び來りて少佐の腰部を貫けり早速野戰病院に入り  
て治療されしも其効なく十四日の夜溘焉として歿されぬ眞に悼し  
き事にぞある此夜師團は明日道を左方に取りて櫻樹溝の敵を攻撃

することに決す

十二日天將に明けんとす偵騎來り報じて曰く櫻樹溝方面の敵は漸  
次に柵木城に退くの狀ありと依て師團は前夜の畫策を變じて直に  
柵木城に突進することせり是に於て前衛及び本隊は共に本道よ  
り進み別に粟飯原大佐をして一隊を率ゐて榛勾より櫻樹溝を経て  
敵の退路を扼せしむ既にして師團の諸隊は漸く進んで柵木城に薄  
りしかば敵は狼狽して海城の方面に遁走せり又大迫右側隊は部署  
の定むる所に由て九日岫巖を出發し道は大偏嶺の方面に取りて軍  
を進め行々敵兵と衝突し撃て之を敗り十日牛心山附近の地に宿營  
し十一日更に進んで潘家堡子及び花紅客を占領して殆んど師團本  
隊と同時に柵木城に向ひたれば東よりは大迫枝隊南よりは師團諸  
隊西南よりは粟飯原大佐の一隊來り薄りて三面合撃の姿と爲り忽  
ちにして柵木城を占領す時恰も午前十時なり敵の數は櫻樹溝方面  
に凡ろ二千人大迫支隊と戦ひし者凡そ三千人又前面には四五千人  
もありしならんといふ然れども我兵の損する者僅々七名の負傷者  
ありしのみ敵の死傷は詳かならざるも蓋し一百名に下らざるべし  
といふ

我軍は柵木城を占領するや直に土民の慰諭に着手し之に相當の保  
護を加へて若干の守備隊を留め三道の兵を合せて敗兵を追ひ更に  
海城の方面に向ふ午後我前衛隊は敵の殿軍と交戦すること數回の  
後遂に營城子を占め師團は此夜楊家店に宿營す既にして師團長は  
海城に進撃するの部署を定めて夜の命令を各隊に發せり  
十三日拂曉我全軍宿營地を發して隊伍肅々滿地の堅氷積雪を踏破  
して海城に進軍す宿營地より海城に至る僅に三里なるも山道多く  
して氷雪の爲めに行軍苦難を極む加之北風吹き荒みて寒威殊に  
烈しく人馬大に困頓し現に路傍に斃れたる凍馬一日二十七頭に達  
せしといふ九時四十分前衛は海城の南一里弱なる羅家堡子に達す  
城の東南蕎麥山には敵兵一千許旗を樹て陣を列ね西方の瞭甲山



にも亦五六百の敵兵あり而して蕎麥山の敵兵は其西北斜面に砲兵陣地を布き野砲三門を備へて午前十時頃先づ我前衛を射撃し來る是に於て大島前衛司令官攻撃命令を諸隊に傳へ粟飯原大佐をして其兵を無名村に進ましむ、是より先き宍道中尉も亦命を受けて蕎麥山に向ひ既に敵と射撃を交換し居れり敵は漸次に山を下りて頻に我に向て砲發し亦俄然我に發砲せしかば我兵直に凹道の兩側畑地に砲兵陣地を布き山砲十二門を展開して之に應戦す而して大島少將は第七聯隊長三好大佐に命じて凹道を距る五百米突の地を占め敵の前面に出でしむ大佐乃ち山口大尉をして部下を率ゐて其任に當らしめ樹林積雪の間に據る敵兵と戦ひ力闘して大に之を破る且つ粟飯原大佐の攻撃其宜しきを得しかば暫時にして敵兵色めきて見ゆ大島少將此機をすかさず前衛前進の命を下し三好大佐をして直に進んで海城内の敵を撃たしむ、是に於て第七聯隊の第一第二中隊は先を競ふて前進し城門に向ふ此時敵の騎兵百餘歩兵數百銃先揃へて我中隊の進撃を禦ぐざし大佐一聲の突貫進撃命令の下に猛り立ちたる我勇兵電撃星馳突進し第三第四の二中隊も亦之を援けて共に奮前せしかば敵兵争か此銳鋒を支ふるを得んや忽ちにして潰散遁竄せり、師團は南門より粟飯原大佐の一隊及び大迫旅團は東門より共に海城に進入し全く之を占領す時に午前十一時なり、師團は直に敵を追撃せしめたるに敵は二道に分れて遼陽方向に退却せし者凡ろ五六千人牛莊方面に遁走せし者凡そ三千なり因て我軍は前衛哨線を張りて師團は海城に留營す此役我軍死者一人もなく唯第六旅團の卒に負傷者四名ありしのみ而して十二十三の兩日我手に落し戦利品は馬匹二十四頭、古式底裝砲二門、小銃二百挺、拳銃二挺、銃劍二十一本、鎗十八本、刀六振、旗十四族、小銃彈七千二百發、火藥六十六包、喇叭三個、軍衣百八着、乗鞍三個なり、嗚呼我忠勇なる貔貅は此兩日を以て有名なる海城柁木の二城を拔けり而して其兵を損する數を問へば僅々十一名の負傷者あるに過ぎず實に古今稀なる勝利

にして我武惟れ揚り皇軍に于て光ありと謂ふ可きなり

桂師團長は土民の綏撫に最も心を用ひ一面は軍隊に向て屢嚴令を發して之を戒飭せり故を以て居民の物品は薪一本炭一塊たりども無代價にて徵發せず舍營を爲すに如何なる陋屋も悉く宿舍料を拂はしむ之を清兵の奪掠暴行を極むるに比すれば實に霄壤の差あり土民の我軍に悦服する決して偶然に非ず、十三日我軍の海城に入りし後桂師團長は城内に耶穌教會ありと聞き衛兵を付し以て特別に



團は直に敵を追撃せしめたるに敵は二道に分れて遼陽方向に退却せし者凡ろ五六千人牛莊方面に遁走せし者凡そ三千なり因て我軍は前衛哨線を張りて師團は海城に留營す此役我軍死者一人もなく唯第六旅團の卒に負傷者四名ありしのみ而して二十三日の兩日我手に落し戦利品は馬匹二十四頭、古式底裝砲二門、小銃二百挺、拳銃二挺、銃劍二十一本、鎗十八本、刀六振、旗十四旗、小銃彈七千二百發、火藥六十六包、喇叭三個、軍衣百八着、乘鞍三個なり、嗚呼我忠勇なる貔貅は此兩日を以て有名なる海城柞木の二城を抜けり而して其兵を損する數を問へば僅々十一名の負傷者あるに過ぎず實に古今稀なる勝利

にして我武惟れ揚り皇軍に于て光ありと謂ふ可きなり

桂師團長は土民の綏撫に最も心を用ひ一面は軍隊に向て屢嚴令を發して之を戒飭せり故を以て居民の物品は薪一本炭一塊たりども無代價にて徵發せず舍營を爲すに如何なる陋屋も悉く宿舍料を拂はしむ之を清兵の奪掠暴行を極むるに比すれば實に霄壤の差あり土民の我軍に悦服する決して偶然に非ず十三日我軍の海城に入りし後桂師團長は城内に耶穌教會ありと聞き衛兵を付し以て特別に之を保護し又牛莊城にある宣教師に一書を致して日本軍は文明的の戰爭を爲す者にして歸順の良民殊に耶穌教徒の如きは保護を加ふべければ各安堵して業に就くべきことを教諭あり度旨を依頼し又營口に在る領事に一書を送りて同主意を該地の宣教師に傳達あり度ことを囑托せられたり中將の敵を破るや其勇鬼の如く民を憫むや其慈悲に似たり古の良將と雖も恐くは之に加ふることを莫るべし

斯くて桂師團長は市政善後の事を處理せんが爲めに十四日舊海城縣衙門内に善後公署を置き地方行政の事務を取ることゝなし村木中佐を以て其長官に任じ島渡邊の兩少佐及び兒島師團參謀をして之れを助けしめ先づ市内及び附近の村落に左の告示を掲げ人民をして善後公署の設立を知らしめたり

出示曉諭事照得海城府衙門開善後公署辦理民間不法之事如有橫行霸道者即投公署面稟勅兵乙擒拿定斬不容決不輕貸

右諭通知

是に於て土民皆善後公署の頼むべきを知り一旦戦を避けて他郷に逃れし者も漸次に其舊屋に歸住し各其業に安んず善後公署は市内の豪商及び有力者を集めて出仕となし以て行政上の質問に應せしむ又司法房を置いて人民の訴訟を聴き民事刑事の裁判を掌らしむ木村長官は法章を草し司令官の許可を経て之を法官に授く又司令官よりは之を人民一般に告示せり法章畧す如此して行政事務畧ぼ



整頓し日を逐ふて緒に就き居民益悦服す

缸瓦寨の占領 我第三師團は獨立師團として海城方面に向ふため十二月三日其屯營地なる安東縣を發し寒氣と降雪との爲めに行軍困難を極め八日岫巖に達し即夜部署して十日柞木城に向て進軍し十二日一舉して之を抜き翌十三日更に進んで一撃の下に海城を陥れし後一面には土民を撫恤して各其業に就かしめ一面には兵士の勞を休めて其銳氣を養はしめ而して斷えず偵騎を出して附近の敵情を偵察しつゝありしに十七日以來の諸報狀に依り敵將宋慶の軍は大石橋胡庄屯蓋家屯附近を経て遼陽地方に退却せんとするものゝ如く十八日午後には我前哨線の前方十一里の處に敵の歩兵來り柳公屯蓋家屯缸瓦寨附近には敵の大部隊あるを知る依て翌十九日之を攻撃することに決し即夜部署を定めて十九日未明より大島枝隊を隙甲山の北方より前進せしめしに柳公屯及び蓋家屯の敵は早や既に退却せり是に於て大迫少將をして歩兵三大隊騎馬一中隊砲兵三中隊を率ゐて缸瓦寨に前進せしめ其他は蓋家屯八里河子に停軍せしむ午後一時半頃大迫少將より敵の大哨隊下加河の西方に停軍しありとの報あり依て一大隊を八里河子に留めて蓋平街の守備となし師團本隊は再び前進す大迫枝隊の前衛は午後一時開戦せしも敵は強大の兵力を現し缸瓦寨及び其東方の小森林に據りて頑に防戦するを以て本隊の到着まで一時休戦す午後四時過ぎ本隊下加河に達す此時大迫枝隊は激戦中にて其右翼はベケンシムラの敵を突貫し之を占領す依て更に本隊を増加し同時に大島少將をして本道より缸瓦寨の敵を攻撃せしめしに敵は優勢を以て猛烈に我に當り我は之に反して西方に向ふ不利の地に在るを以て夕陽眼を射て積雪亦日光を反射し殆ど敵の所在をだに確かむるに苦む程にて頗る苦戦なりしも將校指揮の下に馳驅し突貫四回遂に銃鎗を以て敵を退け全く缸瓦寨を占領せり此日の戦や實に平壤以來の劇戦なりし上地形其他の不便多かりしにも拘らず能く優勢の敵を撃退した

るは固り 大元帥陛下の威靈に由ると雖も一には將校の驍勇と兵士の熟練とに由らざる可からず斯て我兵は缸瓦寨を占領するや直に敵の踪跡を確めん爲め騎兵を放ちて之を追はしめたり其歸り報する所に據れば敵は路を數道に取りて牛莊及び營口の方面に退却せりと當日は激戦數時に亘りしを以て彼我の死傷少からず我軍の即死將校二名共に歩兵少尉下士以下五十二名負傷將校十二名内少佐一名大尉三名中尉五名少尉三名下士以下三百四十五名而して敵の死者は殆んど三百名傷者は詳かならざるも蓋し死者の二倍ならんと

又偵騎の言に據れば敵兵の處々に散屯せる者は遼陽に砲二門兵二



り我は之に反して西方に向ふ不利の地に在るを以て夕陽眼を射て積雪亦日光を反射し殆ど敵の所在をだに確かむるに苦む程にて頗る苦戦なりしも將校指揮の下に馳驅し突貫四回遂に銃鎗を以て敵を退け全く缸瓦寨を占領せり此日の戦や實に平壤以來の劇戦なりし上地形其他の不便多かりしにも拘らず能く優勢の敵を撃退した

るは固り 大元帥陛下の威靈に由ると雖も一には將校の驍勇と兵士の熟練とに由らざる可からず斯て我兵は缸瓦寨を占領するや直に敵の踪跡を確めん爲め騎兵を放ちて之を追はしめたり其歸り報ずる所に據れば敵は路を數道に取りて牛莊及び營口の方面に退却せりと當日は激戦數時に亘りしを以て彼我の死傷少からず我軍の即死將校二名共に歩兵少尉下士以下五十二名負傷將校十二名内少佐一名大尉三名中尉五名少尉三名下士以下三百四十五名而して敵の死者は殆んど三百名傷者は詳かならざるも蓋し死者の二倍ならんと

又偵騎の言に據れば敵兵の處々に散屯せる者は遼陽に砲二門兵二千遼陽と海城との中間なるドンコウホ龍鳳山の西北大約一里なる頭河堡ならんに五百シユサン堡より安山堡に至る間に砲二門兵一千徐邦道の兵五千餘佟の兵二千豐の兵二千依將軍の兵五千吉林三省の兵千五百聶葉の殘兵三千程允和の兵二千總數二萬四千餘の多勢なり

第二軍の諸軍祭 維時明治二十七年十二月廿一日は旅順口陷落の滿一箇月に相當す回顧すれば前月の廿一日は我忠勇なる軍士が奮闘力戦して敵國が渤海の關門と頼みたる東洋無雙の堅壘なる旅順口を占領したる日なり當時の戦狀を想へば豈多少の感なからんや是に於て長谷川混成旅團長は當日午前九時旅順口の西北練兵場に於て戦死者の鎮魂祭を執行せられたり祭壇は場の西北に在る射臺の下に之を築き場の入口より場内に至るまで綠門及び華居を始めとして諸種の作物を配列し旅團の將士祭壇の前面に整列す祭式始まるや長谷川旅團長祭壇に上りて祭文を朗讀し終りて將校相繼いで拜禮し次に各小隊毎に進んで拜禮す此時砲兵は百一發の祝砲を發し尋で地雷火二十一發を爆發す祭式全く了りて後各隊適宜の場所に座を設けて酒宴を開き鯨飲數時各歡を極む當日の作物は皆巧妙を極めたる中にも蜻蛉大灣を呑む狀李鴻章大法螺を吹きながら



倒るゝ状なほは最も人目を惹きしものなり又兵士人夫等の手踊忠臣藏も頗る喝采を博したりと忠死者亦以て瞑すべきなり同日金州及び蘇家屯に於ても亦同様の鎮魂祭を執行して死者の忠魂を慰められしといふ

鎮魂祭の前二日 十二月十九日は我 大元帥陛下親ら軍旗を授けさせられたる當日にして聯隊の最も名譽ある紀念日なれば此日をトして午前は金州に於て第二聯隊の軍旗祭を午後は八里庄に於て第三聯隊の軍旗祭を執行せられ大山大將山地中將以下各將校下士卒皆參集し英米露の將校等も參觀として來り會して盛大なる祭式を舉られ式畢て競走豚追等の遊技を行ひそれより一同式場に入りて酒宴を開き酒は泉の如く肉は山の如く斗酒鯨飲劍舞あり胴上ありて一場の歡聲沸が如し嗚呼我新占領地に於て如此盛大なる祭典を舉行す又一快事といふべし

占領地の新年 缸瓦寨激戦の後差たる戦鬪もなく兵事倥傯の間いつしか明治の二十七年は暮れて二十八年の新春は我新占領地朔北の野に來れり是に於て我忠勇なる十萬の貌貅は各其屯營地に在て五寨峭峯氷雪堆裏に新年を迎へて軍中相當の迎年式を行はれ一面には兵士の勞を休めて銳氣を養はしめ一面には偵騎を放ちて敵情を探らしむ

蓋平の占領 是より先き敵將宋慶は田庄臺に據り蓋平には敵兵五六千屯在し又遼陽方面より一萬以上の敵軍南進するの報あり故に海城に在る第三師團は此三面より敵を受けたるを以て第二軍より兵を出して蓋平の敵を打拂ひ然る後第三師團と連絡を通せざるを得ず是に於て乎蓋平攻撃の議起る抑此計畫の始めて起りしは客歲十二月廿一日なりしも第二軍の兵站地の遠きを以て種々の準備を要し遂に三十日に至り始めて第二軍司令部より混成旅團を出すべきの命令を發せり混成旅團は歩兵第一旅團騎兵一大隊野戰砲兵第二大隊其他の諸部隊を以て編成し乃木少將其長と爲り本隊を率ゐ

て復州街道よりし隱岐大佐枝隊長と爲りて蓋平街道より進むことなる其軍隊の區分を擧ぐれば左の如し

獨立騎兵一大隊(内二小隊と二分隊を缺く)

前衛 第十五聯隊第一大隊騎兵一分隊、工兵第一大隊の第一中隊司令長官同聯隊第一大隊長齋藤少佐

右側枝隊 第一聯隊(第三大隊を缺く)騎兵一小隊

騎兵一分隊、歩兵第十五聯隊、砲兵第二大隊、歩兵第一聯隊の第三大隊、衛生



六千屯在し又遼陽方面より一萬以上の敵軍南進するの報あり故に海城に在る第三師團は此三面より敵を受けたるを以て第二軍より兵を出して蓋平の敵を打拂ひ然る後第三師團と連絡を通せざるを得ず是に於て乎蓋平攻撃の議起る抑此計畫の始めて起りしは客歲十二月廿一日なりしも第二軍の兵站地の遠きを以て種々の準備を要し遂に三十日に至り始めて第二軍司令部より混成旅團を出すべきの命令を發せり混成旅團は歩兵第一旅團騎兵一大隊野戰砲兵第二大隊其他の諸部隊を以て編成し乃木少將其長と爲り本隊を率ゐ

て復州街道よりし隱岐大佐枝隊長と爲りて蓋平街道より進むことなる其軍隊の區分を擧ぐれば左の如し

獨立騎兵一大隊(内二小隊と二分隊を缺く)

前衛

第十五聯隊第一大隊、騎兵一分隊、工兵第一大隊の第一中隊司令官同聯隊第一大隊長齋藤少佐

右側枝隊

第一聯隊(第三大隊を缺く)騎兵一小隊

騎兵一分隊、歩兵第十五聯隊、砲兵第二大隊、歩兵第一聯隊の第三大隊、衛生隊、中隊、輜重兵第一梯隊(長平岩少佐)、第一野戰病院、歩兵彈藥各一縱列、第一糧食縱列、輜重兵第二梯隊(長岸少佐)、第一歩兵彈藥縱列、第二、第三糧食縱列

命令既に下り部署既に定まるなじか一刻も猶豫すべき各部隊は一月二日其宿營地を發して普蘭店に集合す

一月三日午前八時本枝兩隊左右に分れて普蘭店を發し隱岐右側隊は東方の直道よりし乃木本隊は復州街道よりして各蓋州に向ふ是より先き在金山第一師團司令部より電報乃木少將の許に達す曰く第一軍參謀長よりの通報に據れば我混成旅團の斥候隊蓋平附近に着する時第三師團より大斥候を派遣し敵狀を偵察せしめたりしに蓋平には敵の歩兵五千馬隊五百大砲十門あり田庄臺には凡ろ二萬の敵兵埋伏し且つ宋慶の兵も之に合併したりと云ふ太田中尉以下は去る廿九日海城に着したり(因に記す太田中尉は十二月廿日隱岐聯隊長の命を受け決死の猛兵六十一名を率ゐ糧餉の如きも得れば食し得ざれば食せず即ち斃而後止的決心を以て此の大々の危険の大斥候に當りたるものなり)

斯て隱岐枝隊は此日寒風を冒して午後四時瓦房店に達し此に宿營す翌四日午前八時二十分同地を發し午後三時三十分半拉山に達し枝隊本部は同地の富豪劉善財の家に舍す此夜斥候長本郷大尉より左の報告枝隊長の許に達せり

一月二日支那人李可徳を間諜として蓋平方面に放ち敵狀を偵察せしめたりしに翌三日午後六時三十分熊兵城に歸來して左の報告を爲せり



蓋平は東西兩門を閉ち南北二門を開き共に衛兵を置けり又自分は日本軍の通信人と疑はれ痛く訊問を受けしも脆辯を以て僅に免かるゝを得たり但し遂に城中に入るの機會を得ざりき因て其夜は南門外の民舎に宿し窺に城中の様子を聞きしに城中には張頭領の兵四千と其他尙ほ唐田、韓等諸將の兵若干あり砲數概ね五百(?)又清兵は高粱の穀を積んで砲身を隠蔽し伴り退きて之れに火を放ち以て我を傷めんとするの謀あり二臺及び榆林堡に於て清の歩兵若干及び騎兵二十名許りの舍營するを認め又三日午前沙崗臺の東方に於ても敵の騎兵二十名許り舍營するを見受けたりと

### 又二日將校斥候を出せしに其復命左の如し

我騎兵は沙崗臺にて敵騎凡そ廿名許りに會合せり三日下士斥候を熊岳城の西南東に在る西坡子に出せしに土人の抵抗する者ありしを以て之れを殺したり本日(四日)本官歩兵一小隊騎兵五騎を率お敵狀偵察として饒頭山東方の道路に向ふ

五日午前八時三十分枝隊は半拉山を發し午後二時二十分老虎峪に着して此地に宿營す此夜牛三十餘頭を購ひ將校以下士卒に至るまで皆鮮肉に腹を肥し且つ暖を取りて安眠せり

六日午前八時四十五分宿營地を發し氷雪を踏み峻坂を越え或は路に迷ひ或は迂回して正白旗に向ふ途次熊岳城に在る本郷大尉の發したる遞騎哨の來るに會し審かに敵狀を知る此日の行軍は實に非常の困難ありたる爲め宿營地なる正白旗に達せしは午後五時十分頃なりき此夜曩に蓋平方面に進入せし太田中尉の率ゆる大斥候は無事に海城に達して第一軍と連絡を通じ再び危險を冒して六十一人缺ることなく皆健全無上の名譽を兩肩に擔ひて歸隊す隱岐大佐大に歡び爲めに大白を浮べて此偉功を祝したり

七日此日は本隊と枝隊と會合するの約ありしを以て午前九時正白旗を發し二時間許にして莫家店に達し此處に宿營して本隊の消息を待つ午後四時頃に至り乃木本隊長より報あり曰く只今熊岳城に達すと

八日本隊は熊岳城に滯營し枝隊は四臺子に宿營す此夜十二時析木城に在る第一軍第三師團第十八聯隊長佐藤大佐の手より連絡斥候として樺山中尉以下十六名四臺子の枝隊本部に到着す隱岐枝隊長

以下將校下士卒數十名之れを門前に迎へ第一軍の爲めに萬歳を唱へ其無事を祝し其勞苦を慰めしに同中尉も隱岐大佐の親切を謝し諸般の報告を爲して茲に一泊し翌九日午前八時兩軍連絡再會の期を約して柞木城に引返したり是より先き樺山斥候と相前後して在海城の第三師團司令部より乃木少將の許に左の電報達せり

田庄臺に在りし宋慶の軍は二三日以來運動を始め目下高刊及び二道河附近に在り彼我の斥候は日々相觸接するに至る但し彼の目的は孰れに在りや詳かならずと雖も前面の狀况如此なるを以て大石橋には枝隊を派遣し雖も門司



七日、此日は本隊と枝隊と會合するの約ありしを以て午前九時正白旗を發し二時間許にして莫家店に達し此處に宿營して本隊の消息を待つ午後四時頃に至り乃木本隊長より報あり曰く只今熊岳城に達すと

八日本隊は熊岳城に滯營し枝隊は四臺子に宿營す此夜十二時析木城に在る第一軍第三師團第十八聯隊長佐藤大佐の手より連絡斥候として樺山中尉以下十六名四臺子の枝隊本部に到着す隠岐枝隊長

以下將校下士卒數十名之れを門前に迎へ第一軍の爲めに萬歳を唱へ其無事を祝し其勞苦を慰めしに同中尉も隠岐大佐の親切を謝し諸般の報告を爲して茲に一泊し翌九日午前八時兩軍連絡再會の期を約して析木城に引返したり是より先き樺山斥候と相前後して在海城の第三師團司令部より乃木少將の許に左の電報達せり

田庄臺に在りし宋慶の軍は二三日以來運動を始め目下高刊及び二道河附近に在り彼我の斥候は日々相觸接するに至る但し彼の目的は孰れに在りや詳かならずと雖も前面の状況如此なるを以て大石機には枝隊を派遣し難し尤も門司少佐の大隊は七日出發湯池を経て大杉馬嶺に向て前進し敵を牽制して貴團と連絡すべき旨を命じたり

九日午前八時本隊は熊岳城を發して蓋州本道を進み枝隊は四臺子より右折して間道を進み行々斥候を放ちて伏兵の有無を偵査しつゝ各隊五里餘の山路を経過し本隊は榆林堡に枝隊は老爺廟に宿營す此夜乃木少將は諸隊長を集めて明日攻撃の部署を定む當時蓋平の敵將は張振臺徐邦道等にして其兵合せて凡そ四千あり蓋平河の兩岸一帯の地を楯として陣を張る故を以て我軍は一月十日前夜の部署の如く左右翼及び中央の三面に戦隊を進めて未明より攻撃を始めたるに敵は城南の蓋平河に沿ひ凡そ千三百米突の線を守り必死の抵抗を爲して激戦四時間に及ぶ我兵は前日來非常の寒氣と非常の困難に遭遇したるも更に屈する色なく殊に勇悍決死の乃木少將自ら之を指揮したる事とて一軍の士氣大ひに振ひ遂に午前九時三十分を以て全く同地を占領せり我斥候騎兵は城北を迂回したる際宋慶の兵凡そ一萬許り蓋平方面に向て進むを見たりと雖も後に至り徐邦道は十八營の兵を率ゐて來りたりとの報あれば我斥候の最初認めたる者は即ち徐の配下なりしならんといふ然るに同部下の兵は未だ到着せざるに先ち蓋平既に陥りたれば徐は山海附近にて敗兵を收容し營口方面に退却したるものゝ如し此日敵將聶士成は退走の際城の南門前を馬車にて通行する時我兵其馬を撃殺し尙ほ彼の腰部を撃ちて之を傷けたれば彼は車を出でゝ部下の兵に擁



護せられ辛じて逃去りたりと云、戰既に終りたる後第一軍第三師團の門司少佐は其大隊を率ゐて蓋平に來り尙ほ青木第一軍參謀も亦來會し茲に全く第三師團と連絡を通じたり又乃木少將は戰終りたる後直に一部隊をして敵兵を追撃せしめたり蓋平の地たる金州と相匹敵する程の一都府なるも戸口は稍少く四面繞すに城壁を以てするも南東の二門あるのみにて北西の兩面は出入の道なしと此役我將校下士卒の死傷者は死者四十五名傷者二百五十五名分捕は大砲四門小銃二百餘挺彈藥若干旌旗百餘旒其他各種の兵器若干にして捕虜は百五十餘名なりと云ふ

海城の逆襲 遼陽方面に在りし敵は一月十七日海城を回復せんとて城に向て攻寄せ來る我前哨の之を認知したるは午前八時なりし敵は漸次に陳列を開展して頭河堡より二臺子に亘り殆んど三里の間に延伸し本陣はチヨウコ山に在て二三重の縦列を布り我兵はカシキ山に放列を布きて其附近に兵を集め敵の近くを待つ敵の左翼先づ發砲し其右翼は千五百米突内外の地に至りて發砲せり我第三師團の兵は城の北方に陣して防戦せし後午後三時半過攻撃に轉じて敵の右翼に逼り六時過遂に之を撃退せり此日敵の兵力は一萬餘にして其大部は普賴屯及び鞍山站方面に退き一部は牛莊地方に走れり其死傷は概ね二三百名なれども我死傷は將校下士以下合せて四十名(内將校一名)戰利品大砲五門拾鎗滿洲の古砲二門其他雜品若干なり爾後四日を隔で、再び海城を襲ひ來りしも我兵復た撃て之を退けり

榮城灣の上陸 第二軍の後半部として久しく廣島に滯營して日に出軍の命を待ちつゝありし佐久間中將の率ゐる第二師團(仙臺)は今や重大なる任務を奉じて一月十日廣島を發して宇品に出で五十餘隻の運送船に搭じて同日午後六時航艦相啣んで同港を解纜せり運送船は此新發の魏貅を載せて何處へ向はんとするや盛京省過半は既に我有に歸し奉天遼陽は風を望んで膽を冷し牛莊營口は聲を聞

て震懾す聞説く山東十八省は古來武を用ひし地にして昔春秋戰國の世に在ては今の登州一帶の地方は當時の強國齊の奮地なり桓公據て以て霸たり管仲田單等の如き英傑輩出せり而して今や威海衛の要鎮も現に此地方に在り以て我武を試むべしと雖も堅壘天險に據り且つ防禦甚だ嚴なるを以て前面より之を攻むるは又容易の事を得ず是に於て乎榮城灣上陸の議起る即ち第二師團の向ふべき地は此榮城灣なり然れども先づ大連灣に入りて戰備を整へ且つ軍艦の掩護を要するを以て同灣指して駛行せり斯て數十隻の運送船は十四日未明に大連灣に到着し佐久間將軍は直に上陸して金州の司



榮城灣の上陸 第二軍の後半部として久しく廣島に滯留して日に  
出軍の命を待ちつゝありし佐久間中將の率ゐる第二師團(仙臺は今  
や重大なる任務を奉じて一月十日廣島を發して宇品に出で五十餘  
隻の運送船に搭じて同日午後六時船艦相啣んで同港を解纜せり運  
送船は此新發の貔貅を載せて何處へ向はんとするや盛京省過半は  
既に我有に歸し奉天遼陽は風を望んで膽を冷し牛莊營口は聲を聞

て震懾す聞説く山東十八省は古來武を用ひし地にして昔春秋戰國  
の世に在ては今の登州一帶の地方は當時の強國齊の奮地なり桓公  
據て以て霸たり管仲田單等の如き英傑輩出せり而して今や威海衛  
の要鎮も現に此地方に在り以て我武を試むべしと雖も堅壘天險に  
據り且つ防禦甚だ嚴なるを以て前面より之を攻むるは又容易の事  
に非ず之を抜かんと欲せば附近の地に上陸して背面より衝かざる  
を得ず是に於て乎榮城灣上陸の議起る即ち第二師團の向ふべき地  
は此榮城灣なり然れども先づ大連灣に入りて戰備を整へ且つ軍艦  
の掩護を要するを以て同灣指して駛行せり斯て數十隻の運送船は  
十四日未明に大連灣に到着し佐久間將軍は直に上陸して金州の司  
令部に到りて即日歸船す既にして後發の運送船も亦尋で到り十六  
日我新戰隊は全く大連灣に集り以て命の下るを待つ十九日正午命  
あり各運送船は總て之を艦隊組織と爲し軍艦の先導に依て三回に  
出發すべしと是に於て第一回は遠江丸督船監として十九艘同日午  
後一時を以て拔錨し第二回は長門丸監督として十五艘廿日午前十  
時第三回は横濱丸監督として十六艘廿一日拂曉各纜を解き榮城灣  
に向へり軍艦の護衛せしは第一回に發したる十九隻のみにして他  
は軍艦の掩護を受けず各一定の針路に向て航行し二十日未明より  
廿二日正午までに全く榮城灣に集る是より先き金州に在りし第六  
師團(熊本)は其長黒木中將之を率ゐて第一第二二回の運送船に分搭  
し又大山大將も第二回發の横濱丸に搭して翌廿一日上陸地に着せ  
り先發の軍艦八重山金剛愛宕摩耶警城の數隻は二十日既に榮城灣  
に入り午前六時龍鬚島に向て砲撃を始めたり時に天漸く明けた  
るも雪花繽紛として降り陸上を望見するに一白糝糊岸上の敵其有  
無多少を知る能はず八重山最先頭に在て一隻の端艇を卸し愛宕摩  
耶も各一隻を下し之に海兵若干と陸軍の將校兵士合して十餘名を  
加へ上陸偵察として岸頭に向はしむ一行凡て三十一名八重山の士  
官大澤大尉之を指揮し速射砲を載せて進む其漸く岸に近くや銃砲



の聲は交陸上に起りて彈丸雨の如く海面に落つ大澤大尉は艇員に命じて速射砲及び小銃を射撃せしめ且つ應戦し且つ背進して各本艦に歸る八重山之を見て死決隊七人を送り大澤大尉復之を指揮して彈丸雨注の間を潜進す其漸く岸に近きし時には敵は既に遁走して又一兵なし七勇士直に上陸して電線を斷ち電柱上に海軍旗を翻へし大砲四門を分捕す而して我兵一の死傷なし其功其勇賞するに餘りありと謂ふべし既にして陸兵の上陸も亦準備せられ軍艦水雷艇は各方面を巡警し殊に本艦隊と第一遊撃隊とは威海衛の外海を蔽障して我陸兵の上陸を掩護せり午後一時戰鬪部隊上陸を終り黄昏頃糧食彈藥縱列も亦陸揚を了す上陸兵は直に小西莊の敵營を襲ふ敵戦はずして走る而して米飯豚羹方に熟して鼎に在り其午飯を喫するに及ばずして走りたる狼狽の状想ふべし又陸兵の一部隊は山東角の登臺に向ひ其到るや燈臺管理人英人二名獨人一名支那人數名は儀式を以て燈臺内に迎入れり部隊は直に燈臺を占領し併せて電信局の書類を押収し一應外國人を尋問し燈臺竿頭に旭旗を翻へして一同萬歳を祝し其儘立歸れり斯て師團司令部は之を小西莊に置き後又之を其附近の馬家畔に移して茲に舍營す軍司令部の先着員は小西莊に隣る大西莊に入りて撫民の榜示を爲せり而して師團の前衛は仲木大佐之を率ゐて午後二時小西莊を發し四時三十分過榮城縣に達し上野大尉の率ゐる一箇中隊を以て縣城の東壁より攻撃し七時十五分に至り全く之を占領す前兵は直に敵の殘兵を追撃し其十三人を虜にす分捕戰利品若干あり此夜一枝隊は進んで鹽灘王皇廟を占領して茲に宿營せり初め師團前衛の縣城に達するや城門堅く鎖して開かず我兵六人高壁を攀ちて入り内より之を開きて攻城隊を迎へたりしと此際敵の兵力は凡そ三四百人も有りしならんが近來此地に派遣されたる新募の兵なれば抵抗を試むる勇なく未だ使用せざる砲門を残して脆くも逃げ失せしなり榮城灣は山東省の東端威海衛の東南十五里にある大灣にして灣内水深く大艦

巨船を容るゝに足る地勢遙に威海衛大連灣に勝り其形恰も我函館港に似たり沿岸に人家凡そ三百餘戸ある一大村落なるも間大廈高樓あり樹木其間を點綴して風景絶佳なり

登州の砲撃 我軍隊の榮城灣に上陸せんとするや敵兵を牽制する爲め第一遊撃艦隊の中吉野秋津洲浪花の三艦は吉野を旗艦として十八日午前六時雪を冒して登州に向ひ午後二時を以て砲撃を始め其不意に出で、敵兵を牽制し兵力を登州に集めさせ悠々として碇



漢王皇廟を占領して遂に宿營せり初め師團前衛の縣城に達するや城門堅く鎖して開かず我兵六人高壁を攀ちて入り内より之を開きて攻城隊を迎へたりしと此際敵の兵力は凡そ三四百人も有りしならんが近來此地に派遣されたる新募の兵なれば抵抗を試むる勇なく未だ使用せざる砲門を殘して脆くも逃げ失せしなり榮城灣は山東省の東端威海衛の東南十五里にある大灣にして灣内水深く大艦

巨舶を容るゝに足る地勢遙に威海衛大連灣に勝り其形恰も我函館港に似たり沿岸に人家凡そ三百餘戸ある一大村落なるも間大廈高樓あり樹木其間を點綴して風景絶佳なり  
登州の砲撃 我軍隊の榮城灣に上陸せんとするや敵兵を牽制する爲め第一遊撃艦隊の中吉野、秋津洲、浪花の三艦は吉野を旗艦として十八日午前六時雪を冒して登州に向ひ午後二時を以て砲撃を始め其不意に出で、敵兵を牽制し兵力を登州に集めさせ悠々として碇泊港へ引揚げたり  
有栖川大將宮の薨去 舊臘より御病惱に罹らせ給ひ御療養中なりしに御容體勝れさせられざるより一月廿四日午前一時を以て須磨の御別邸より御歸京遊ばされし參謀總長兼神宮祭主陸軍大將大勳位功二級有栖川熾仁親王殿下には藥石其効を奏せず遂に同日午後三時霞が關の御邸に於て薨去あらせられたり伏して惟ふに殿下の御勳功は戊辰の討幕に西南の役に赫々奕々殊に客歲征清の師起るや參謀總長の大任を帯びさせ給ひ日夜軍國の機務に御精勵あらせられしに俄然此訃音に接す痛惋し奉らざるを得ず是より先殿下御危篤の報大本營に達するや 陛下には特に殿下に菊花章頸飾を賜ひ且つ功二級に叙し金鵝勳章を賜ふ殿下薨去に付き同廿四日より三日間廢朝仰出され同日より五日間宮中喪仰出されたり又廿四日より三日間歌舞音曲を停止し御葬儀執行の當日は東京府下に限り尙ほ之を停止せられたり貴衆兩議院にては兩院議長參殿して恭しく殿下追悼の吊詞を奉呈したり御葬儀は特に國葬を行ふ旨勅令第十一號を以て公布せられ此葬費は廿七年度追加豫算として二萬圓を帝國議會に請求し兩院とも満場一致を以て之を即決せり御葬儀は廿九日と定められ同日午前九時御邸を御出棺あり豊島岡の御墓所に埋葬し奉れり當日は諸皇族を始めとして各大臣諸官員兩院議員各國公使華族總代理諸政黨員諸會社員等無慮數萬人會葬し奉り又儀仗兵は近衛師團兵全員の半數と第一師團留守兵の半數にて最も



嚴肅に奉送したり

清國媾和使拒絶始末 王師奮揚して海陸並び勝ち將に一蹶して北京を衝かんとす此時に方りて清國は和を我に請はんが爲めに尙書銜總理各國事務大臣戸部左侍郎張蔭桓及び頭品頂戴署湖南巡撫邵友濂を以て欽差全權大臣と爲し我に派遣せしむ使節は一月七日北京を發し上海長崎を経て同三十日神戸に着す是より先き北米合衆國前國務卿フオスター氏は媾和使顧問と爲り米國を發して神戸に來り以て使節の來神を待つ我政府は井上外務書記官を遣し使節を迎へしむ使節の着神するや一旦上陸して同日午後二時御用船尾張丸に乗じて同港を發し三十一日宇品に着す一行合せて四十九名井上書記官及び通譯官に導かれて上陸し休憩の後廣島に向ひ午後二時十分頃來廣して各定の旅館に投せり使節既に到る朝廷乃ち伊藤陸奥の二大臣を以て全權辦理大臣と爲し廣島縣廳を以て議衙と爲す此日我 大元帥陛下は全權辦理大臣を簡命させ給ひし勅書を宣示せらる使節も亦其齎す所の君主の親任狀を奉呈す是に於て乎二月一日を以て談判を開けり此日張邵の二使は十名の隨行員を従へ三名の巡查及び警部に先導せられて登應し雙方全權の表證を照合し今後談判に關する打合を爲し僅に一時間許りにして去れり翌二日我より照會する所ありて午後四時再度の會議を開き使節の資格不完全なるを以て媾和談判の拒絶を申し入り速に我國を去るべきことを命ず彼等之を聞いて憂色面に顯はれ悄然として去れり今林外務次官が議院に於て朗讀されたる談判拒絶の宣告を左に掲げて其大要を知らしむ且つ外に双方往復したる數通の書あれども茲に畧す

清國媾和使去月三十一日廣島に到着したるを以て兩國全權委員の會合を経たり而して該使が帶有する所の全權委任狀を査見したるに頗る完全妥當を欠くものにして清國政府が其使節に十分の全權を與へざるは未だ兩國に現存する所の重要なる問題を結了せんとするの誠意なきものなりと認めざるを得ざるに依り帝國全權委員は該使節に向て最早此上會議を繼續すること能はざる旨を宣告するの止むを得ざるに至れり是れ伊藤陸奥兩大臣より林次官へ電信にて報せし者なり

使節の廣島を放逐せらるゝや彼等は四日の午前十時旅館を出で、宇品に到り復尾張丸に搭し井上書記官鄭外務屬及び園田警視總監以下警部巡查之に乗込みて長崎まで送出す爲め同日午後同港へ向て解纜せり

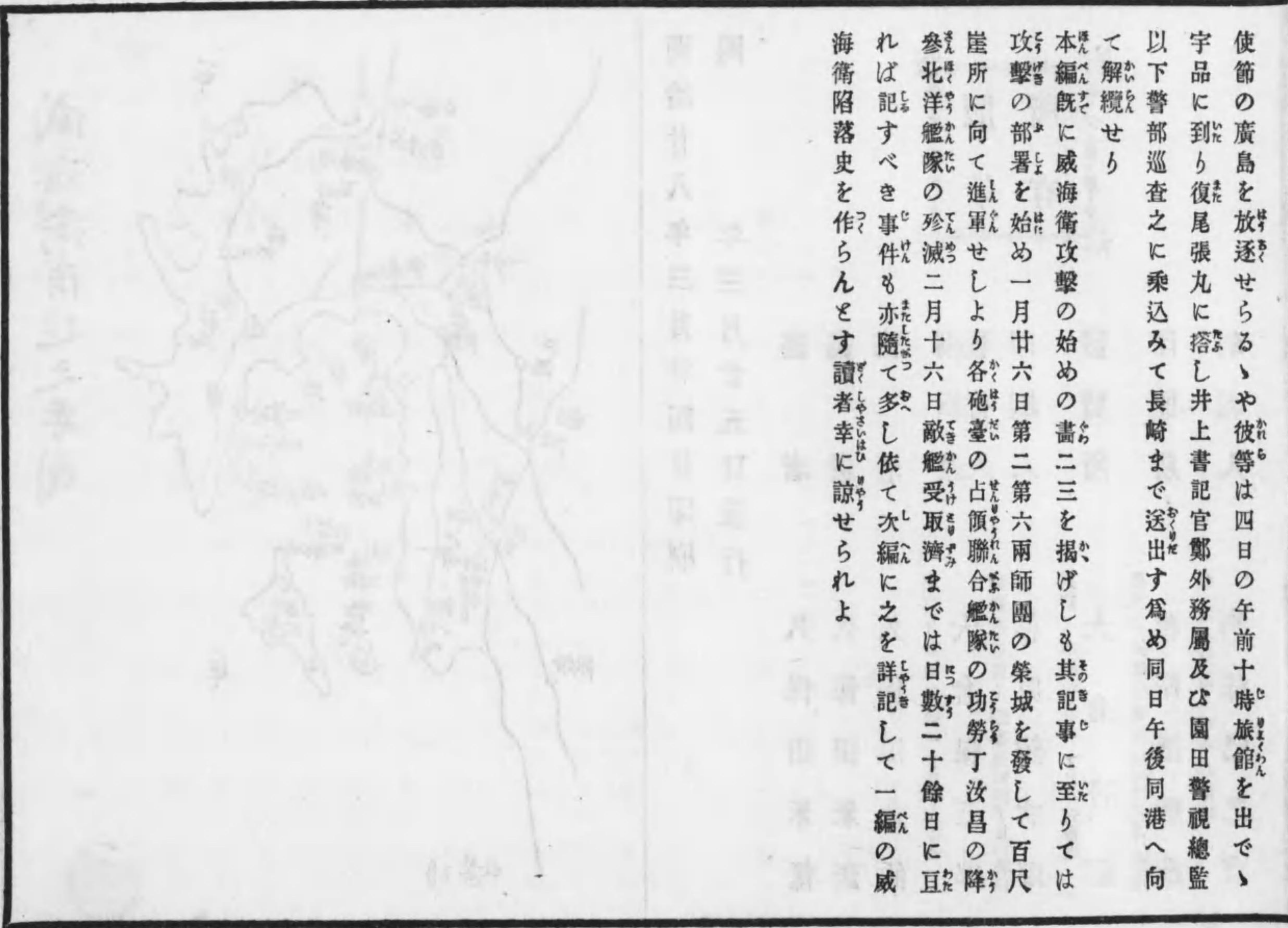
本編既に威海衛攻撃の始めの畫二三を掲げしも其記事に至りては



次官が副院に於て創設されたる... 要を知らしむ且つ外に双方往復したる數通の書あれども茲に畧す  
清國齋和使去月三十一日廣島に到着したるを以て兩回同縣廳に於て兩國全權委員  
の會合を經たり而して該使が帶有する所の全權委任狀を査見したるに頗る完全妥  
當を欠くものにして清國政府が其使節に十分の全權を與へざるは未だ兩國に現存  
する所の重要なる問題を結了せんとするの誠意なきものなりと認めざるを得ざる  
に依り帝國全權委員は該使節に向て最早此上會議を繼續すること能はざる旨を宣  
告するの止むを得ざるに至れり是れ伊藤陸奥兩大臣より林次官へ電信にて報せし  
者なり

使節の廣島を放逐せらるゝや彼等は四日の午前十時旅館を出で、  
宇品に到り復尾張丸に搭し井上書記官鄭外務屬及び園田警視總監  
以下警部巡查之に乗込みて長崎まで送出す爲め同日午後同港へ向  
て解纜せり

本編既に威海衛攻撃の始めの畫二三を掲げしも其記事に至りては  
攻撃の部署を始め一月廿六日第二第六兩師團の榮城を發して百尺  
崖所に向て進軍せしより各砲臺の占領聯合艦隊の功勞丁汝昌の降  
參北洋艦隊の殄滅二月十六日敵艦受取濟までは日數二十餘日に亘  
れば記すべき事件も亦隨て多し依て次編に之を詳記して一編の威  
海衛陷落史を作らんとす讀者幸に諒せられよ













終

